

第13回小矢部市女性議会 報告書

女性が輝き街が元気になる！



小矢部市女性団体連絡協議会

目 次

発刊にあたって

小矢部市女性団体連絡協議会会長 嶋 田 幸 恵

小 矢 部 市 長 桜 井 森 夫

小矢部市議会議長 吉 田 康 弘

第 13 回小矢部市女性議会報告	・ ・ ・ ・ ・ 1
第 13 回小矢部市女性議会実施要項	・ ・ ・ ・ ・ 2
第 13 回小矢部市女性議員名簿	・ ・ ・ ・ ・ 3
第 13 回小矢部市女性議会活動日程	・ ・ ・ ・ ・ 4
委員会報告	・ ・ ・ ・ ・ 10
第 13 回小矢部市女性議会一般質問	・ ・ ・ ・ ・ 12
小矢部市政に対する要望について	・ ・ ・ ・ ・ 26
小矢部市女性議会を終えて	・ ・ ・ ・ ・ 32

—女性議員活動—

第 13 回小矢部市女性議会を開催して

小矢部市女性団体連絡協議会
会 長 嶋 田 幸 恵



小矢部市女性団体連絡協議会では、女性の地域向上を目指し、社会的視野を広め、小矢部市政・政策を学習し生活に密着した議題や女性の視点をとらえた課題に取り組み、市政に女性の声を反映させたいと、平成9年に第1回女性議会が開かれ、今回第13回女性議会を実施致しました。

昨今、女性議会の議員選出にも大変苦慮しておりましたが、各種団体の方々のご理解とご協力により、年齢層も幅広く、色々な分野からの16名の議員を選出することが出来ました。心から感謝申し上げます。

7月28日に当選証書付与式を行い、同日、小矢部市役所議場にて開会をし、総務産業建設常任委員会・民生文教常任委員会と所属していただき、学習会等を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症が収束せず、皆様には、市内視察も出来ず、委員会での学習も制限を受けた中で、大変ご苦勞なさったと思います。

10月22日には、議会を再開し、各常任委員会の委員長報告をされ、市政に対する一般質問では各常任委員会から2名ずつ質問して頂きました。市長をはじめ各担当者からの答弁をもらい、小矢部市政に対する要望について7つの項目について決議されました。

限られた期間ではありましたが、しっかりと取り組んでいただきました。少子高齢化、人口減少社会の進行による大きな変革の時代を迎えている中、今までの道を拓げて下さった先人の思いを引き継ぎ、一人ひとりが個性や能力を発揮し、いきいきと暮らせる、真の意味での男女共同参画が実現されるべく、第13回女性議会の皆様には今回の経験を活かし、各々のお立場、分野でご活躍下さいませお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、この女性議会を開催するにあたり、温かいご理解とご指導、ご協力を賜りました桜井市長はじめ市議会、市当局の皆様にご心からお礼申し上げますとともに、女性議会の運営に携わっていただいた女性団体連絡協議会会員の思いと強い絆を感じながら取り組む事が出来たことに心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

令和4年3月

発 刊 に よ せ て

小矢部市長 桜井 森 夫



小矢部市女性団体連絡協議会の皆様方には、日頃から市政の推進にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨今の少子高齢化による人口減少の進行、市民の価値観や生活様式の多様化など、私たちをとりまく社会環境は大きく変化し、大きな転換期を迎えております。

こうした中、真の豊かさを実感できる地域社会の実現に向けて、市民と行政が一体となって、その課題に取り組むことが大変重要であり、とりわけ、性別にかかわらず、

市民一人一人の個性や能力が発揮できる、男女共同参画の実現が、魅力あふれるまちづくりには、欠かせないものと考えております。

その意味におきましても、小矢部市女性団体連絡協議会の主催のもと、昨年7月から10月にかけて開催されました「第13回小矢部市女性議会」は、女性の視点から、広く市民の立場に立ち、直接市政に参画する機会として、誠に意義深いものであったと思っております。本女性議会において、高齢社会問題をはじめ、子育て支援、観光、防災、定住促進など、女性議員の皆さんからいただいた貴重なご意見やご提言は、小矢部市政が直面している課題を的確に捉えたものであり、今後の市政を運営していく上で大きな成果に繋がると確信しております。

本市では、「小矢部市男女共同参画プラン（第2次）」に基づき、家庭や職場、地域などあらゆる分野で男女が共に参画し、対等な立場で考え、行動できる社会を目指して、市民と行政が一体となって、より一層の推進に努めてまいりますので、今後ともご理解ご協力をお願い申し上げます。

今回の女性議会を契機として、豊かで活力ある社会の実現に向けて、女性の積極的な社会参画をご期待するとともに、小矢部市女性団体連絡協議会の今後ますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

令和4年3月

発 刊 の お 祝 い

小矢部市議会議長 吉田 康 弘



小矢部市女性団体連絡協議会の皆様方には、日頃から市政の進展、女性の地位向上、地域社会の振興に絶大なるご尽力をいただいておりますことに、心から厚く御礼申し上げます。

近年の社会経済状況は、少子高齢化・人口減少の進行、未曾有な自然災害の発生、情報通信技術の急速な進展、個人の価値観やライフスタイルが多様化・複雑化するなど目まぐるしく変化しており、多様な住民ニーズに対応した効果的で効率的な行財政運営がより一層求められております。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、男女間の雇用格差・所得格差が顕

在化し、男女共同参画社会の重要性が再認識されております。

このような時代の趨勢の中で、誰もが住みやすく魅力ある地域社会を構築していくためには、様々な視点からの意見を取り入れ、市政に反映させていくことが必要であります。

また、政治、経済、社会など様々な場面において、女性が男性とともに活躍する場を拡大させていくことは、公正で多様性に富んだ持続可能な地域社会づくりを推進するために不可欠であろうと考えます。

その意味において「第13回小矢部市女性議会」は、皆様方の視野を広げ、女性ならではの視点から市政に対するご意見を伺うことのできる大変有意義な機会であったと思います。

皆様方には、今回の女性議会を契機として、男女共同参画社会の一層の充実や魅力ある小矢部市づくりのために、積極的に参画し、高い識見を発揮されますことを心からご期待申し上げます、お祝いのことばといたします。

令和4年3月

第 1 3 回

小矢部市女性議会報告

会期 令和 3 年 7 月 2 8 日 (水)

～

令和 3 年 1 0 月 2 2 日 (金)

第13回小矢部市女性議会実施要項

- 1 趣 旨 女性の地位向上と社会的視野を広め、生活に密着した課題や問題を捉え、市政への提言など、女性の声を市政に反映させる。
- 2 目 的 (1) 女性の市政に対する関心を深める。
(2) 議会制民主主義を学ぶ。
(3) 女性活動のリーダーを養成する。
- 3 主 催 小矢部市女性団体連絡協議会
- 4 共 催 小矢部市、小矢部市議会
- 5 後 援 小矢部市教育委員会、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社、北陸中日新聞
- 6 会 期 令和3年 7月28日(水) から
令和3年10月22日(金) まで
- 7 会 場 市議会議場・・・組織議会・本会議
第1委員会室・・・委員会・学習会
- 8 議員定数 16名
- 9 会議の構成 ◎組織議会 組織、市長施政方針の説明(令和3年7月28日)
◎委員会 ・総務産業建設常任委員会 随時
・民生文教常任委員会 随時
◎視 察 現地視察(8月予定)
◎学習会 地方自治、議会制民主主義及び市政に関する諸問題について
◎本会議 一般質問、委員長報告、決議(令和3年10月22日)
- 10 募 集 議員の募集は、次のとおり行う。
(1) 応募資格 市内在住の20歳以上の女性
(2) 申込受付 市定住支援課、小矢部市女性団体連絡協議会
(3) 募集期間 令和3年6月7日(月)～令和3年6月25日(金)
(4) 議員の決定 募集手続きから議員の決定までは、小矢部市女性団体連絡協議会が管轄する。また、応募者数が定数を超えた場合は、小矢部市女性団体連絡協議会で組織する選考委員会で選考する。
(5) 申込書 別紙様式による。
- 11 事 務 会議運営の指導 小矢部市定住支援課及び小矢部市議会事務局
活動運営、庶務 小矢部市女性団体連絡協議会

第 13 回小矢部市女性議員名簿

議席番号	氏名	ふりがな	委員会	議会役職	委員会職
1	南部 沙希	なんぶ さき	民生文教常任委員会		
2	開田 瞳	かいだ ひとみ	民生文教常任委員会		
3	小林 恵美	こばやし めぐみ	総務産業建設常任委員会		書記
4	中村 真子	なかむら まさこ	民生文教常任委員会		
5	川田 由佳	かわだ ゆか	民生文教常任委員会		書記
6	中嶋 ちはる	なかしま ちはる	総務産業建設常任委員会		副委員長
7	多賀 比呂美	たが ひろみ	民生文教常任委員会		
8	野村 道代	のむら みちよ	総務産業建設常任委員会		
9	番土 智枝子	ばんど ちえこ	総務産業建設常任委員会		
10	宮崎 千恵子	みやざき ちえこ	民生文教常任委員会		委員長
11	大窪 慶子	おおくぼ けいこ	総務産業建設常任委員会		委員長
12	吉田 敏美	よしだ としみ	総務産業建設常任委員会		
13	稲原 永子	いなはら ながこ	民生文教常任委員会	議長	
14	本田 喜美子	ほんだ きみこ	民生文教常任委員会		副委員長
15	福江 悦子	ふくえ えつこ	民生文教常任委員会	副議長	
16	忠田 啓子	ちゅうだ けいこ	総務産業建設常任委員会		

第 13 回小矢部市女性議会 活 動 日 程

当選証書付与式

第 13 回小矢部市女性議会

開 会 式

日時 令和 3 年 7 月 28 日 (水)
午後 1 時 45 分
場所 小矢部市役所 議場

1 開 会

2 開会のあいさつ

小矢部市女性団体連絡協議会会長 嶋 田 幸 恵

3 市長祝辞

小矢部市長 桜 井 森 夫

4 市議会議長祝辞

小矢部市議会議長 藤 本 雅 明

5 閉 会

議事日程第1号

令和3年7月28日(水)
午後2時開議

日程第1 仮議席の指定について

日程第2 議長選挙について

追加議事日程 第1号の追加

日程第3 議会運営に関する諸法令の準用について

日程第4 議席の指定について

日程第5 会議録署名議員の指名について

日程第6 会期の決定について

日程第7 副議長選挙について

日程第8 常任委員の選任について

日程第9 施政方針の説明について

全員学習会

日時 令和3年7月28日(水)
本会議終了後
場所 第2委員会室(3階)

- | | | | |
|---|----------|-------|------|
| 1 | 地方自治について | 総務課 | 野澤課長 |
| 2 | 議会制度について | 議事調査課 | 西村課長 |
| 3 | 市の財政について | 財政課 | 森課長 |

生活密着の声 市政に

小矢部市女性議会が開会



第13回小矢部市女性議会 富山新聞社後援は28日、常任委員会を設置し、生活密着した声を市政に届けたいと密着した声を市政に届ける取り組みで、10月22日までの会期中、女性の立場から市政課題について議論と学びを深める。



稲原永子さん

第13回小矢部市女性議会（富山新聞社後援）は28日、常任委員会を設置し、生活密着した声を市政に届ける取り組みで、10月22日までの会期中、女性の立場から市政課題について議論と学びを深める。公算の議員16人が出席し、議長は選挙で稲原永子さん（66）＝名ヶ滝＝、副議長は指名推選で福江悦子さん（68）＝杉谷内＝を選んだ。総務産

業建設、民生救済の2常任委員会の委員を選任した後、桜井森夫市長が今年度の施政方針を説明した。議員は委員会や市内施設視察研修などで市政の現状や課題に理解を深め、最終日の本会議で一般質問を行う。初日は16人に当選証書が付与された後に組織議会議が開かれ、地方自治や議会制度、市の財政について学ぶ全員学習会も開かれた。市女性団体連絡協議会の嶋田幸恵会長が「女性ならではの視点を生かし、住みよ小矢部のために提案をしてほしい」と呼びかけた。桜井市長、藤本雅明市長が祝辞を述べた。委員会の構成は次の通り。◎は委員長、○は副委員長。

- ▽総務産業建設 ◎大窪慶子、○中嶋ちはる、小林恵美、野村道代
- ▽民生救済 ◎吉田敏美、○本田喜美子、○南郷沙希、開田瞳、川田由佳、多賀比呂美、稲原永子、福江悦子

生活課題 市に提言

女性議会開会 議長に稲原さん

小矢部市女性議会は28日、市議会議場で開会し、議長に稲原永子さん（66）＝名ヶ滝＝、副議長に福江悦子さん（68）＝杉谷内＝を選んだ。議員16人が女性の視点で生活に密着した課題や問題点を調べ、10月22日に一般質問して市に提言する。主催する市女性団体連絡協議会の嶋田幸恵会長が「培ってきた経験を力にし、

市政に反映させてほしい」とあいさつ。桜井森夫市長と藤本雅明市長が祝辞を述べた。委員会構成を決め、市長から施政方針の説明を受けた。市政への関心を高め、女性活動のリーダーを育てるため、2年に1度開かれる。北日本新聞社後援。

小矢部市女性議会議員 (敬称略)



市政の理解目指し 小矢部市女性議会（北陸中日新聞後援）が二十八日、開会した。議員十六人は視察や学習会を経て十月二十二日の本会議で一般質問や決議を行う。市女性団体連絡協議会が女性の地位向上と社会的視野を広げるため二年に一回開いている。開会に先立ち、加盟団体などから選ばれた十六人が嶋田幸恵会長から当選証書を受け取り、

桜井森夫市長から「これまで以上に市政に理解を深めてほしい」と激励を受けた。本会議では選挙で議長に稲原永子さん（名ヶ滝）、副議長に福江悦子さん（杉谷内）を選んだ。七十二歳の最年長で、議長が決まるまで臨時議長を務めた忠田啓子さん（西福町）は「市更生保護女性会に所属しており、社会をよくする活動など市政について勉強したい」と抱負。中村真子さん（西町）は「ベビーサインのイベント講師をしており、子育て支援や子育て施設について市の現状を知り私なりの提案ができれば」と話した。



女性議会に臨む議員たち＝小矢部市議場で（同市提供）

第13回小矢部市女性議会常任委員会日程

月 日	委員会	所属	時間(約 20 分)
8月3日(火)	民生文教 常任委員会	市民課	14:00 ～ 14:20
		生活環境課	14:20 ～ 14:40
		健康福祉課	14:40 ～ 15:00
		社会福祉課	15:00 ～ 15:20
		こども課	15:20 ～ 15:40
		教育総務課	15:40 ～ 16:00
		文化スポーツ課	16:00 ～ 16:20
		予備	16:20 ～
8月4日(水)	総務産業建設 常任委員会	企画政策課	10:00 ～ 10:20
		定住支援課	10:20 ～ 10:40
		総務課	10:40 ～ 11:00
		財政課	11:00 ～ 11:20
		税務課	11:20 ～ 11:40
		行政マネジメント課	11:40 ～ 12:00
		農林課	13:00 ～ 13:20
		稲葉山牧野	13:20 ～ 13:40
		都市建設課	13:40 ～ 14:00
		商工観光課	14:00 ～ 14:20
		上下水道課	14:20 ～ 14:40
		会計課	14:40 ～ 15:00
		議事調査課	15:00 ～ 15:20

第13回小矢部市女性議会本会議日程

日 時 令和3年10月22日(金)

午後2時

場 所 小矢部市議会議場

1 小矢部市女性議会本会議

- (1) 開会
- (2) 委員長報告
- (3) 一般質問
- (4) 決議
- (5) 閉会

2 閉会式

- (1) 開 会
- (2) あいさつ
- (3) 来賓あいさつ
市長あいさつ 小矢部市長 桜井 森夫
議長あいさつ 小矢部市議会議長 吉田 康弘
- (4) 閉 会

第13回小矢部市女性議会

議 事 日 程 第 2 号

令和3年10月22日(金)

午後2時開議

- 日程第1 各常任委員会の報告について
(委員長報告)
- 日程第2 市政に対する一般質問について
(一般質問)
- 日程第3 議員提出議案第1号
小矢部市政に対する要望についての決議
(提出者の提案理由説明・質疑・討論・表決)

小矢部・女性議会で一般質問

女性視点で 市執行部と舌戦

4人が登壇

第13回小矢部市女性議会（富山新聞社後援）は最終日の22日、市議会議場で本会議を開き、4氏が一般質問した。質問テーマは子育て支援や防災、観光資源の充実などさまざま。防災力の強化、市ゆかりの「木曾義仲と巴御前」を生かした誘客施策に関しては、市執行部から前向きな答弁を引き出した。参加者は満足そ

子育て、防災、「義仲と巴」…



一般質問が行われた市女性議会—小矢部市議会議場

今回の女性議会に参加したのは20代から70代までの16人。7月28日の女性議会委員会以降、民生文教、総務産業建設の両常任委員会から通じて市政の現状や課題に理解を深めてきた。この日は、多賀比呂美、中村真子、番土智枝子、野村道代の各氏が登壇。「本家本元」の市議16人に負けず劣らずの堂々とした一般質問を披露した。

市長、周遊ルート確立」

「義仲・巴」を生かした観光資源の充実を求める番土氏の質問に対し、桜井森夫市長は「倶利伽羅古戦場周辺の環境整備を通じ受け入れ体制を強化し、麓ゆかりの自治会と連携した周遊観光ルートの確立を図りたい」と答弁した。

野村氏は、市の防災態勢をただし、桜井市長が「避難者のニーズを的確に受け止める人材育成が必須で、女性や若い世代に防災への関心を深めてもらう講習会開催を検討したい」と答えた。

定住支援の充実など市政に対する7項目の要望を決議し、閉会した。終了後、市女性団体連絡協議会会長の橋田幸恵市議、来賓の桜井市長、吉田康弘市議会議長があいさつした。

子育て・観光市に提案

市女性議会 4人が一般質問

小矢部 小矢部市女性議会（稲原永子議長）は22日、本会議を開き、議員4人が高齢者支援や子育て、観光振興、防災などの分野で一般質問し、女性の視点で市に提案した。市は「3世代防災教室」の開催を検討するとした。

多賀比呂美、中村真子、番土智枝子、野村道代の各氏が質問した。高齢者のボランティア活動推進や、子育て支援センターの土曜開所、観光ネットワーク設立、女性防災ボランティアコーディネート育成などを提案・要望した。

3世代防災教室については、桜井森夫市長は、世代を越えた防災意識醸成を図る上で意義深いとし、地区

委員会報告

民生文教常任委員会

委員長 宮崎 千恵子

民生文教常任委員会の活動報告をいたします。

7月28日、組織議会において、福江悦子、本田喜美子、稲原永子、多賀比呂美、川田由佳、中村真子、開田瞳、南部沙希、宮崎千恵子の9名が、民生文教常任委員に選出されました。

当日、桜井市長より施政方針をお聞きし、その後、全員学習会において、地方自治・議会制度・予算概要の説明を受けました。

8月3日には、民生文教常任委員会が開催され、所管担当課長より委員会に関する業務内容の説明、予算概要について詳しく説明をいただき、小矢部市の予算を再認識する機会となりました。

9月21日には、社会福祉協議会より、小矢部市における高齢者のボランティア活動の取り組みの様子について、担当職員から説明を受けました。このことを通して、私たちは、高齢者のボランティアの現状や課題等について、多くのことを学ぶことができました。

民生文教常任委員会では、5回の学習会を開催し、地域の高齢者や子供たちの現状を踏まえ、どのような支援が望ましいのかを考え、次の2項目を取り上げることとしました。

1. 高齢者が地域とつながり、生き生きと暮らすために
高齢者の「安心・安全」を高める手立てについて
高齢者の健康寿命を延ばすボランティア活動の
推進について
高齢者の移動手段の支援について
2. 子育て世代から選ばれる市をめざして
子供が誰でも利用できる施設について
「放課後子ども教室」の推進について
「子育て支援センター」の土曜日開所について
親子共に安心できる病児・病後児保育の拡張について



民生文教常任委員会には、現在、高齢の家族がおられる委員や子育て・孫育て真っ最中の委員が多数います。

学習会を通して、高齢者や子供たちの現状や要望について、切実な問題として、具体的に意見交換をすることができました。また、今まで全くかかわってこなかった事にも、委員全員が関心を持って話し合いを進めることができました。

これを機に、今後、委員一同、さらに問題意識をもち、小矢部市の発展に貢献できるよう努力していきたいと思っております。

以上をもちまして、民生文教常任委員会の報告を終わります。

総務産業建設常任委員会の活動報告をいたします。

7月28日組織議会において、忠田啓子、吉田敏美、番土智枝子、野村道代、中嶋ちはる、小林恵美、大窪慶子の7名が総務産業建設常任委員に選出されました。

当日、桜井市長より施政方針をお聞きし、その後の全員学習会において、地方自治・議会制度・予算概要の説明を受けました。

8月4日には、総務産業建設常任委員会が開催され、令和3年度小矢部市予算概要に基づいて、所管の担当課長より業務内容の説明を受けました。その後、常任委員会での意見を集約し、質問を市に提出しました。

9月5日埴生護国八幡宮を見学、12日宮島峡や稲葉山を視察しました。

全委員での会合1回と、2グループに分かれて計5回の会合を重ね、次の項目を取り上げることにしました。

1. 「義仲、巴」を生かした観光資源の充実について
2. 誘客促進について
 - ・コンベンション誘致について
 - ・観光ネットワーク設立について
3. 小矢部市の防災について
 - ・水害時のハザードマップに記された避難箇所について
 - ・地域ぐるみの防災意識向上について
 - ・女性防災ボランティアコーディネーターの育成について
4. 定住支援について



総務産業建設常任委員会は、委員会の活動を通して小矢部市の魅力を再発見させて頂きました。また、これを機に小矢部の魅力や防災について問題意識を持ち、本市の発展に貢献したいと思います。

以上をもちまして、総務産業建設常任委員会の報告を終わります。

第13回小矢部市女性議会一般質問

No	発言者	通告内容	担当課	答弁者
1	多賀比呂美	1 高齢者が地域とつながり、生き生きと暮らすために	—	—
		(1) 高齢者の「安心・安全」を高める手立てについて	健康福祉課	市長
		(2) 高齢者の健康寿命を延ばすボランティア活動の推進について	健康福祉課	市長
		(3) 高齢者の移動手手段の支援について	生活環境課	市長
2	中村真子	1 子育て世代から選ばれる市をめざして	—	—
		(1) 子供が誰でも利用できる施設について	こども課	市長
		(2) 「放課後子ども教室」の推進について	文化スポーツ課	市長
		(3) 「子育て支援センター」の土曜日開所について	こども課	市長
		(4) 親子共に安心できる病児・病後児保育の拡張について	こども課	市長
3	番土智枝子	1 「義仲・巴」を生かした観光資源の充実について	—	—
		(1) 「義仲・巴」を生かした観光資源の充実について	商工観光課	市長
		2 誘客促進について	—	—
		(1) コンベンション誘致について	商工観光課	産業建設部長
		(2) 観光ネットワーク設立について	商工観光課	産業建設部長
4	野村道代	1 小矢部市の防災について	—	—
		(1) 水害時のハザードマップに記された避難箇所について	総務課	市長
		(2) 地域ぐるみの防災意識向上について	総務課	市長
		(3) 女性防災ボランティアコーディネーターの育成について	総務課	市長
		2 定住支援について	—	—
		(1) 定住支援への本市の取り組みについて	定住支援課	企画政策部長

質問者 多賀 比呂美 民生文教常任委員会

質問等事項

高齢者が地域とつながり、生き生きと暮らすために

- ① 高齢者の「安心・安全」を高める手立てについて
- ② 高齢者の健康寿命を延ばすボランティア活動の推進について
- ③ 高齢者の移動手段の支援について



質問内容

①高齢者の「安心・安全」を高める手立てについて

高齢者をはじめとして、日常生活の悩みや相談を発信できない人がいます。その原因の一つとして、どこに相談すればよいか複雑で分かりにくいことが挙げられると思います。現在小矢部市で発行されている「くらしの便利帳」は、刷新され充実した冊子になっていますが、高齢者にとっては情報量が多く、文字も小さく活用しにくいという声を聞いています。

そこで、解決策として、1点目は、市役所にいろいろな種類の相談窓口はありますが、高齢者に特化した「SOS相談窓口」を設置することを提案します。暮らしに関する悩みや相談はすべて「SOS相談窓口」へ電話を一本化し、相談窓口係がそれぞれの内容に応じた支援につながるように対応したらどうかと考えます。

2点目は、この「SOS相談窓口」等の電話番号を記入した「SOSカード」の配布を提案します。これは、高齢者が一目で分かるように、大きな文字で「SOS相談窓口」と地区の民生委員・高齢福祉推進員・福祉推進員の氏名と電話番号、災害時の避難場所等を一覧にして一枚にまとめたものです。民生委員等を通して全戸に配布することにより、高齢者の暮らしが、「安心・安全」になると考えます。この2点の提案について、市のお考えをお伺いいたします。

②高齢者の健康寿命を延ばすボランティア活動の推進について

平均寿命が年々高くなり、高齢者の健康寿命を延ばすことは、社会保障費の負担からみても、市の財政に直結する重要な課題です。平成28年度厚生労働白書によると、高齢者が健康であり続けるためには、それぞれの意欲や関心、健康状態等に応じて、自分に合った地域活動や社会貢献活動等を選び、自由に参加できるような環境づくりが必要だと提言しています。

小矢部市には、社会福祉協議会内に小矢部市ボランティアセンターが設置され、令和2年度は83団体3個人、合計2336人の方が登録されています。しかし、ボランティアをする人の高齢化が進み、会員が減少している等の現状について、担当者から話をお伺いしました。小矢部市は、富山県でも糖尿病の罹患率が非常に高くなっています。これは、高齢者の在宅時間が長く、テレビを見て過ごす生活習慣、運動不足等に起因し、社会参加しようとする意欲低下にもつながると考えます。

これらの解決策として、ボランティア活動への参加を推進することが重要です。具体的

には、ボランティアセンターの活動の認知度を高めるためにケーブルテレビで宣伝し、福祉推進員を通してボランティアをする人を募ったり、事業所や施設と行政が連携したボランティアの活動を広げたりすることにより、より多くの会員を集めることができると考えます。

近隣市町村で実施されているボランティアポイント制度の導入も、高齢者が継続的にボランティア活動に参加する手立てと考えます。高齢者の人口比率がますます高まるなか、高齢者が生きがいを持って生き生きと健康な生活が送れるように、高齢者のボランティア活動の推進について、市のお考えをお伺いいたします。

③ 高齢者の移動手段の支援について

地域住民の足としての市営バスは、停留所以外でも自由に乗り降りできる「自由乗降区間」を設定される等、改善されながら、長年運営されています。また、「乗り合いタクシー」を取り入れ、高齢者のニーズに応えるように工夫されています。しかしながら、自宅から停留所まで遠い、バスや乗り合いタクシーが迂回するので時間を要する等「利用しにくい。」という高齢者の声があることも事実です。

その解決策として、射水市等で既に導入されている「ドア to ドアのデマンド型乗り合いタクシー」の導入を検討していただきたいと思います。この「ドア to ドアのデマンド型乗り合いタクシー」は、事前に予約し目的地まで効率よく廻るルートを毎回設定して、利用者を乗せたり降ろしたりしながら乗り合いで移動するものです。短時間で目的地まで行くことができ、乗り合いのため、タクシーより低料金になります。行政と事業者の連携事業として実施していただきたく、提案いたします。このことについて市のお考えをお伺いいたします。

一般質問

[発言者] 多賀 比呂美

[質問] 高齢者が地域とつながり、生き生きと暮らすために

[要旨] ①高齢者の「安全・安心」を高める手立てについて

[答弁] 市長 桜井 森夫

本市では、介護予防、介護、認知症など的高齢者の様々な相談に対応する総合的な相談窓口として、平成18年4月より健康福祉課内に「地域包括支援センター」を開設しております。高齢者に特化した「SOS 相談窓口」を設置してはどうか、との議員ご提案の機能を兼ね備えた身近な相談窓口として、運営しております。

この地域包括支援センターの具体的な役割等につきましては、地域福祉の関係者会議の場や健康福祉課が発行するパンフレット等に掲載し、広く周知を行っているところであります。

また昨年11月には、広報おやべに高齢者の総合相談窓口としての地域包括支援センターを紹介する内容を掲載したところであり、今後とも、この地域包括支援センターの活動等につきましては、高齢者の皆さまにも親しまれる名称とすることも含めて、市民の皆さまへの適切な周知や啓発に努めてまいりたいと考えております。

次に、「SOSカード」の配布のご提案につきましては、今日の高齢者を取り巻く様々な状況や課題等を把握した上で、現在、市社会福祉協議会が配付している「もしもカード」

にご指摘いただいた内容を加えること等につきまして、市役所内の関係課や市社会福祉協議会と連携しながら検討してまいりたいと考えております。

【要旨】 ②) 高齢者の健康寿命を延ばすボランティア活動の推進について

【答弁】 市長 桜井 森夫

本市では、高齢者の健康寿命延伸のため、「第8次小矢部市高齢者保健福祉計画」等に基づき、健康増進事業をはじめとして、様々な事業を通じて支援を行っているところであります。

具体的には、市社会福祉協議会によるふれあいいきいきサロンへの活動支援や高齢者スポーツ大会等への開催支援、市シルバー人材センターによる就業等への支援など、関係機関等との連携を図り、積極的に社会参加できる体制の構築に努めているところであります。

次に、高齢者自身によるボランティア活動として、市長寿会連合会における高齢者訪問支援活動をはじめ、高齢者ボランティアグループによる福祉施設のシーツ交換、喫茶や演芸ボランティアなど様々な活動が行われているところであります。

一方、市社会福祉協議会が運営するボランティアセンターにおきましては、市ケーブルテレビや広報誌「こだま」において、活動希望者の登録や活動の紹介などとともに、ボランティア活動に係る養成講座の開催等についても広報活動を行っているところでありますが、新規登録者数は伸び悩んでいると伺っております。

本市といたしましては、高齢者が継続的にボランティア活動に参加することは、社会参加の促進や健康寿命の延伸の観点から、大変重要だと考えておりますが、最近では、こうした観点からボランティア活動に参加することでポイントが貯まり、貯まったポイントに応じて商品券などと交換することができる「ボランティアポイント制度」を導入し、ボランティア活動を推進している事例もあると伺っております。

このことから、本市といたしましては、他自治体におけるボランティアポイント制度の活用の検討も含め、本市の実情に即した高齢者のボランティア活動を推進してまいりたいと考えております。

【要旨】 ③) 高齢者の移動手段の支援について

【答弁】 市長 桜井 森夫

本市におきましては、民間バス路線が運行していない、いわゆる公共交通空白地域において、市営バスと乗り合いタクシーが予め定められた路線を定額運賃、定時刻で運行しております。また、乗り合いタクシーにつきましては、前日夜9時まで電話予約をいただくことにより、最寄りの停留所から目的地近くの停留所まで乗車していただくこととしております。

ご提案の「ドア to ドアのデマンド型乗り合いタクシー」につきましては、これまでも導入の可否を検討してきたところであります。自宅玄関先において乗降車ができるといったメリットの一方で、予約状況に応じて、その都度運行ルートを決定する必要があることから、特に、散居村を有する本市においては、迎えに来る時間や目的地への到着時間が不確定になるといったデメリットがあります。

また、運行経費の観点からは、現在の市営バス等の運行体制を維持しつつ、ご提案の乗

り合いタクシーを導入した場合は、それに伴う経費が上乘せとなり、また、現在の市営バス等の運行体制を全面的に取り止めた上で新たに導入する場合や一部地域に限定して導入する場合においても、現在使用するバス車両と比較し、一度に乗れる乗客数が少なくなることから、現状と同程度の乗客数を輸送するためには、運行車両数の増加が見込まれ、一層経費が増えることとなります。

さらに、民間タクシー事業者との関係においても、事業内容が競合することから民業を圧迫する恐れがあり、現状においては導入が困難であるものと考えております。しかしながら、ご提案の事例も参考とさせていただき、本市の公共交通対策の抱える様々な課題等について、引き続き、改善に向けて検討してまいりたいと考えております。

質問者 中村 真子 民生文教常任委員会

質問等事項

子育て世代から選ばれる市をめざして

- ① 子供が誰でも利用できる施設について
- ② 「放課後子ども教室」の推進について
- ③ 「子育て支援センター」の土曜日開所について
- ④ 親子共に安心できる病児・病後児保育の拡張につ



質問内容

- ① 子供が誰でも利用できる施設について

小矢部市では、数年前から「放課後児童クラブ」における施設の拡張や利用時間の延長、指導員の質の向上等に取り組まれています。しかし、定員を超えるため学童側から断られたり、受け入れ可能な施設であっても子供自身が退屈で通うのをやめたりして、一人自宅で親の帰りを待つという子供も少なくないという声を聞きました。これでは子供の安全面や情緒面が心配な上、近くに頼れる人がいない場合、両親のどちらかが仕事をセーブするしかないため、子育てしやすい環境とはいえない状況だと思います。

これらの解決策として、子供が誰でも利用できる「児童館」や各地区に「とやまっ子さんさん広場」の新設を望みます。

「児童館」は、子育て家庭の状況がますます多様化、複雑化するなかで、「日常生活の生活支援」「問題の発生予防・早期発見と対応」「子育て家庭への支援」「中・高校生の居場所づくり」「地域活動」など、0歳から18歳までの子供たちの健全な育成に非常に重要な役割を担っています。

「とやまっ子さんさん広場」は、地域の人たちが子供たちの放課後の居場所を作り、子育てを応援することを目的とした事業です。世代交流もできる心のあたたまる場所ですが、現在小矢部市には、「わくわく小矢部」の1カ所しかありません。また、「わくわく小矢部」は、限られたスペースのため、少人数の子供しか利用できません。ぜひともこのすばらしい事業を、各地区の子供たちにも提供して下さるようお願いいたします。

この2つの施設での「体験・交流・遊び」は、子供にとって自主性や社会性、人格形成を促す重要なものと考えます。また、現状の「放課後児童クラブ」を利用できない子供た

ちの居場所として、夏休み等の受け入れ場所として、柔軟に対応できると考えます。

「児童館」や各地区の「とやまっ子さんさん広場」の新設について、市のお考えをお伺いいたします。

② 「放課後子ども教室」の推進について

小矢部市では、放課後等の子供たちの安全で健やかな活動場所の確保を目的として、「放課後子ども教室」が整備されており、地域ごとに多分野の活動ができます。平成30年から継続中の「小矢部市子どもの未来応援計画」にある「あれば利用したい支援・サービスについて」のアンケート結果でも、「学校や家庭以外で子どもが無償で勉強を学べる支援」や、「学校や家庭以外で子どもが安心して通える居場所」が上位を占め、「放課後子ども教室」は、現在の子育て世代がまさに求めているものといえると思います。「放課後出前教室」は大変人気で、希望しているのに参加できない児童も多いと聞きます。人気のスポーツ教室や新規の学習・文化教室の増枠などお考えでしょうか。これらの事業について、市のお考えをお伺いいたします。

③ 「子育て支援センター」の土曜日開所について

土曜日にも利用できた「子育て支援センター」が移設され、平日のみの利用となりました。また、「おとぎの館図書室」の建物が閉館になり、土日に小さな子供連れの家族が行き場所がなくなって、大変不便になったという声を多く聞きます。

そこで、「子育て支援センター」の土曜日開所を求めます。各支援センター持ち回りで隔週でも開所していただければ、土日にも家事等で多忙なお母さんの代わりに子供を預かる家族の方、二人以上の子供の育児をしているお母さん方も、大変助かると思います。近隣市町村には土日にも開いている「子育て支援センター」等の施設がありますので、小矢部市でもぜひご検討をお願いします。このことについて、市のお考えをお伺いいたします。

④ 親子共に安心できる病児・病後児保育の拡張について

小矢部市では、病児・病後児保育の両方が設置されており、小学生も受け入れ可能、低料金という点では、砺波市・南砺市に比べると対応が充実しています。

病児保育「おやべにこにこ園」は、医療機関内にあり、体調をくずした時には、院内診療科もあるため、子供に適切な処置が施され、対応も丁寧で安心して利用できる施設です。しかし、通常時の定員2名でも少ないのに、さらに現在はコロナ感染予防のため定員1名となっていて、希望しても利用できない方がたくさんいます。また、病後児保育「石動西部こども園」では2歳からの利用となるため、体調をくずしやすい1歳児の預け先がなくて困っているという声を聞きます。

育児と仕事を両立できる魅力的な市となるよう、病児・病後児保育の拡張を切に願っています。このことについて、市のお考えをお伺いいたします。

一般質問

[発言者] 中村 真子

[質問] 子育て世代から選ばれる市をめざして

[要旨] ①子供が誰でも利用できる施設について

[答弁] 市長 桜井 森夫

放課後児童クラブは、保護者の就労等の理由で放課後や長期休業期間中に児童のみで過ごすなければならぬ小学生を預かり、専門の職員の指導のもと、遊びと生活を支援し、健全育成を行う保育施設であります。

現在、本市における放課後児童クラブは、公立7施設、民間2施設、計9施設が開設されており、利用を必要とする児童を受け入れているところであります。これまでも、おおたに第3放課後児童クラブと津沢こども園放課後児童クラブを開設するなど、必要とする児童数の増加に応じて、その都度、必要な対応を講じてきたところであります。

ご提案の児童館につきましては、児童福祉法に基づく福祉施設であり、子どもに安全な遊びを提供し、心身の健康の増進や情緒を豊かにすることを目的としております。

本市におきましても、これまで児童館の設置について議論を重ねてまいりましたが、その問題点の一つとしては、市内に児童館を一か所設置した場合、平日の放課後において施設の近くに住む児童には利用し易く、遠くに住む児童は安全面からも保護者の送迎が必要になるなど、利用面においての偏りが生じ、利便性の確保が困難になるなど解決の目途が立たない課題があることから、設置を断念せざるを得ない結果に至ったものであります。

このことから、本市といたしましては児童館に限定した議論にとらわれることなく、安心安全で利用し易い放課後児童クラブをはじめとした、子育て支援に関する総合的なサービスの拡充を基本的な方針としているところであります。

なお、「とやまっ子さんさん広場」につきましては、地域住民やボランティア、NPO活動を行う組織や団体等が地域において多様な形で取り組む、小学生の自主的な居場所づくりの事業であります。

現在、市内では唯一、「わくわく小矢部」内の「わくわくさんさん広場」において実施し、月曜日から土曜日の午後2時から5時30分まで、学習や遊びなど子どもの居場所づくりを行っているところであります。

本市といたしましては、引き続き、広くこの事業の周知を図るとともに、事業の趣旨に賛同し、実施を希望される団体等がございましたら、積極的に支援をしてみたいと考えております。

[要旨] ②「放課後子ども教室」の推進について

[答弁] 市長 桜井 森夫

放課後子ども教室は、共働き世帯の増加など、子供たちを取り巻く課題に対し、放課後や週末等において、公民館等の公共施設を活用して子供たちの安全・安心な活動場所を確保することを目的として、地域住民等の参画により、学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する事業であります。

本市では、この事業を「地域おやべっ子教室推進事業」として行っており、教室の企画立案や人材の確保など各教室の実情に合わせて地区公民館、自治振興会または地区児童クラブ等の方々に構成する実行委員会、並びにNPO法人おやべスポーツクラブの協力を得て実施しております。

その中でも、特にスポーツ教室を実施するおやべスポーツクラブの「放課後出前教室」では、定員を超過する場合もあり、大変人気の教室であると承知しております。

議員ご指摘のとおり、放課後子ども教室は、共働き世代の増加などに対応するために有効な手段であり、まさに現在の子育て世代が求めているものの一つであります。

このことから、スポーツ教室の増枠については、予算及び指導者の確保に努めつつ、実施団体とも相談しながら、定員または回数の増加が行えないのか、検討してまいりたいと考えております。

また、学習や将棋、囲碁等の文化教室については、各公民館で実施している地域おやべっ子教室において、文化的な活動を行っている教室があり、また、市民交流プラザや図書館で実施している生涯学習講座においても、子供たちを対象にした「こども講座」を行っていますので、これらを利用していただければと思います。

[要旨]③「子育て支援センター」の土曜日開所について

[答弁] 市長 桜井 森夫

本市の子育て支援センターは、子育て中の親子や家族が集い、育児相談や情報交換等、親どうしの交流の場として開設しており、多くの親子等にご利用いただいているところであります。

令和2年度からは、新たに開園した大谷こども園及び蟹谷こども園にそれぞれ子育て支援センターを併設し、市内では、公立3施設、民間4施設、計7施設となり、地域における子育て支援の拠点として、より利用し易い環境を整えたところであります。

ご指摘の子育て支援センターの土曜日開所につきましては、市内では、唯一、「わくわく子育て支援センター」が実施していることから、まずは、こちらをご利用いただきたいと思いますが、本市といたしましては、今後、この施設における土曜日の利用状況等を把握するとともに、土曜日開所のニーズについて調査を行った上で、ニーズに即した対応をして参りたいと考えております。

[要旨]④親子共に安心できる病児・病後児保育の拡張について

[答弁] 市長 桜井 森夫

本市におきましては、病氣中又は病氣の回復期にあるお子さんで、保護者が就労等の理由で集団保育が困難なお子さんを一時的にお預かりする、病児対応型及び病後児対応型の保育サービスを実施しているところであります。

まず、病児対応型保育につきましては、北陸中央病院内の「おやべにこにこ園」で行われておりますが、病院内の小児科に隣接して設置されており、保護者の皆さまにも安心してお子さんを預けられる環境であることから、多くのご利用があるところであります。なお、通常、定員は2名となっておりますが、現在、新型コロナウイルスの感染防止対策のため1名に縮小していることから、ご不便をおかけしておりますが、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

次に、回復期のお子さんをお預かりする病後児対応型保育としては、「石動西部こども園」内で開設し、市内の保育所、こども園に入所する2歳児からご利用することができるものであります。施設内には看護師が常駐し、専用の保育室を設置して対応しておりますが、ご指摘のとおり、石動西部こども園では、1歳児をお預かりすることはしておりません。

なお、「おやべにこにこ園」では、病後児についてもお預かりすることができることから、1歳児の受け入れについても可能ではありますが、先ほど申し上げたとおり、現在、受け入れ人数を制限しているところでもあります。

このことから、本市といたしましては、適切な保育環境の提供に資するため、病児病後児保育サービスに対するニーズを把握するなど、安全で安心な子育て支援体制の充実を図ってまいりたいと考えております。

質問者 番土 智枝子 総務産業建設常任委員会

質問等事項

1 「義仲、巴」を生かした観光資源の充実について

① 義仲、巴を生かした観光資源の充実について

2 誘客促進について

① コンベンション誘致について

② 観光ネットワーク設立について



質問内容

1 「義仲、巴」を生かした観光資源の充実について

① 「義仲、巴」を生かした観光資源の充実について

木曾義仲と巴を主人公としたNHK大河ドラマ誘致実現に向け、富山県やゆかりの41団体で構成した協議会が発足し、小矢部市では、平成23年10月からドラマ誘致の署名活動を開始され、累計265,401名の署名を集められました。また、平成26年12月は、NHK放送センターへ「大河ドラマ誘致実現に向けた要望書」を提出され、桜井市長はじめ一生懸命取り組んでこられました。

さて、「義仲」主人公の大河ドラマにはなりませんでしたが、ようやく2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に義仲、巴が登場いたします。

この大きなチャンスを起爆剤にし、「義仲、巴ゆかりの地」を前面に押し出し、義仲ゆかりの観光資源を生かした観光巡りや、ロケーション誘致が一番の宣伝や集客につながると考えます。そのためには、環境整備、周遊観光ルートの確立、そして、おもてなしとしての観光ガイドの充実が必要と考えます。当局のお考えをお伺いいたします。

2 誘客促進について

① コンベンション誘致について

小矢部市には、学会や大会、修学旅行や合宿など、コンベンションを主催する団体支援する宿泊補助金があります。それによって宿泊施設の宿泊利用状況について、お伺いいたします。

他市では、大学ゼミやスポーツ合宿、修学旅行、また、文化団体が実施されたそうです。

小矢部市には、ホッケーの町おやべとして、ホッケー場や陸上競技場、クロスランドおやべなど、コンベンション施設が点在しております。また、稲葉山牧場や宮島峡、倶利伽

羅峠など、自然豊かで魅力的な観光地があります。

補助制度は、他市では県外参加者が対象であり、本市は市外参加者が対象の手厚いものです。そこで、商工観光課にとどまらず他課と連携し、近隣大学や高校、文化団体関係者、旅行会社に積極的に紹介し、コロナウイルス感染症の対策を万全にすることで、スポーツ・文化イベントの開催地となれば、施設利用と宿泊数の伸びに繋がると思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

②観光ネットワーク設立について

当委員会の研修会の中で、小矢部市では多種多様なパンフレットが製作されていることがわかり、観光に関してのパンフレットを中心に注目いたしました。パンフレットの情報・サイズなど、改めて見直す機会となり、その中から女性目線の提案がいろいろ出てまいりました。

現在、観光協会でも情報発信しておられますが、女性や若い方、また、旅行者からの率直な意見や感想、商工会女性部、青年部、交通事業者、旅行業者、観光ボランティアの方々など、日々感じておられる観光客の情報を活かすことで、さらなる観光の充実が図れると考えます。そこで、観光に特化したネットワークの設立について、当局のお考えをお伺いいたします。

一般質問

[発言者] 番土 智枝子

[質問] 「義仲・巴」を生かした観光資源の充実について

[要旨] ①「義仲・巴」を生かした観光資源の充実について

[答弁] 市長 桜井 森夫

先般、来年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」において、木曾義仲役を青木崇高氏、巴御前役を秋元才加氏が演じられるとの報道発表がありました。

残念ながら、義仲・巴御前は主人公として登場するわけではありませんが、長年、顕彰及びドラマ誘致活動に取り組んできた本市といたしましては、全国的に人気の高い歴史ドラマ番組に義仲・巴御前が取り上げられることから、義仲・巴御前の魅力を強力に情報発信する絶好の機会ととらえており、郷土の歴史再発見、地域活性化につなげてまいりたいと考えております。

議員ご指摘のとおり、義仲・巴御前ゆかりの観光資源を生かした観光地巡りやロケーション誘致をとおして、誘客に努めることは必要だと考えております。

これまでも、倶利伽羅県定公園内の観光案内看板設置や展望台の建設など、倶利伽羅古戦場周辺の環境整備を実施してまいりましたが、引き続き、継続的に環境整備を行い、受け入れ態勢の充実を図るとともに、全国のゆかりの自治体とのネットワークを生かし、連携した周遊観光ルートの確立、来訪者に対する観光ガイドのおもてなし力の向上を図るなど、義仲・巴御前の魅力を生かした誘客促進に積極的に努めてまいります。

[質問] 2 誘客推進について

[要旨] ①コンベンション誘致について

[答弁] 産業建設部長 河原 達矢

本市では、交流人口の増加及び地域の経済活動の活性化を図ることを目的に、本市内で開催される学会、大会、会議、スポーツ大会、修学旅行、合宿などを実施する団体に対してコンベンション支援事業補助金を交付しています。

昨年度、今年度につきましては、コロナ禍により利用はありませんが、コロナ禍以前はホッケーやハンドボール、サッカー、野球、水泳、吹奏楽等の合宿など、多岐の分野にわたる活動で利用され、誘客の増加につながってまいりました。

コロナ収束後は、本市の立地条件から、多くの利用申し込みがあると期待しているところであり、パンフレットやSNSなどでの積極的な情報発信により、コンベンション誘客促進を図ってまいりたいと考えております。

議員ご指摘のとおり、担当課だけではなく、文化スポーツ課などとも連携して、近隣の大学や高校、文化団体、旅行会社などへの補助金制度の周知に努めるとともに、本市の観光情報の発信を強化し、施設利用と宿泊者の増につなげてまいりたいと存じます。

[質問] ② 観光ネットワーク設立について

[答弁] 産業建設部長 河原 達矢

本市では、誘客促進のため、市観光協会と連携して、パンフレットやホームページ、ツイッターなどのSNSを活用した積極的な観光情報発信に努めております。

市観光協会には、交通事業者や観光ボランティア団体など様々な団体・個人が加入しており、定期的に行われる会合等において、本市の観光に関する課題等について活発に意見交換が行われています。

一方で、議員ご指摘の市商工会女性部や青年部につきましては、市観光協会への加入はないものの、独自に観光事業に携わり、本市の賑わいづくりにご尽力いただいているところです。

本市といたしましては、市観光協会を中心としたネットワークを十分に活用しながら、市商工会女性部・青年部など観光に携わる関係団体のご意見・ご提案などいただけるような場や旅行者からの意見を吸い上げるような手法についても、今後検討してまいりたいと考えております。

質問者 野村 道代 総務産業建設常任委員会

質問等事項

- 1 小矢部市の防災について
 - ①水害時のハザードマップに記された避難箇所について
 - ②地域ぐるみの防災意識向上について
 - ③女性防災ボランティアコーディネーターの育成について
- 2 定住支援について
 - ①定住支援への本市の取り組みについて



質問内容

1 小矢部市の防災について

① 水害時のハザードマップに記された避難箇所について

近年、ゲリラ豪雨も多く「想定外の災害」という言葉をよく耳にします。

小矢部市が作成されたハザードマップを確認したところ、浸水予想地域に何箇所もの避難所がありました。現在、避難中に土砂災害や浸水で、避難経路が寸断されてしまう道路は、市内で何か所ほどあり、補強工事の予定はあるのかをお伺いいたします。

さらに、確実に安全な避難場所の表示、避難経路の確保、また、避難中の二次災害がない安全なルートの表示が大切だと思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

② 地域ぐるみの防災意識向上について

昨今、災害が多発する中、地震や災害時に大切なことは、子どもや高齢者は家庭でどのような行動をとればよいのか、話し合う必要があると感じています。

現在、小矢部市内では防災フェスタや防災訓練などが開催されておりますが、さらに、地域の避難所ごとに「3世代防災教室」を行うことで、実際の避難経路や有事の際の避難生活をイメージできるのではないのでしょうか。当局のお考えをお伺いいたします。

③ 女性防災ボランティアコーディネーターの育成について

日本の避難所では、災害時に授乳や着替えで、女性が苦勞したり、ストレスを抱えてしまうことが多いと聞きます。避難場所の計画や備えを検討する際に、男性が中心となることが原因のひとつであると考えます。

現在、小矢部市では、11名の女性防災士が活動されています。しかし、防災士になるには、休暇を取得しての講習や試験などハードルが高く、女性防災士の増加に繋がっていません。

しかし、災害で避難が現実のものとなったとき、すべての方々に配慮された避難所の運営が必要になります。子供や高齢者の対応など避難者にとっても、話しやすい防災ボランティアの需要が高まることも予想されます。

まずは、多くの女性が必要とされていることを、市民に周知してもらい、また、高校生などの若い世代にも知ってもらうことが大切です。そこで、防災ボランティアコーディネーターの講習会を開いてはいかがでしょうか。避難者への細やかな心配りや、心のケアができる人材を育成することが、市民の災害への心の備えになると思いますが、当局のお考えをお伺いいたします。

2 定住支援について

① 定住支援への本市の取り組みについて

小矢部市では、これまでも様々な手厚い定住支援策を実施されています。

昨年6月、「テレワークが中心になったら住むべき街4選」に紹介され、今月10日から約1ヶ月間、東京の山手線車両で、稲葉山からの写真と「テレワークするなら小矢部市」の文字を入れた広告で、小矢部のPRをしています。

今後、定住を考えている若い世代や子育て世代へ向けてのPRには、新しいこども園や保育園を視野にいったチラシを製作する事により、小矢部の魅力を伝えていけると思います。

また、小矢部市の定住支援制度を、より多くの方々に知ってもらうために、小矢部市内や近隣市町村の企業、住宅メーカー、産婦人科等、チラシやポスターの配置・掲示をお願いする事によって、制度の利用促進につながると思われませんが、当局のお考えをお伺いいたします。

一般質問

[発言者] 野村 道代

[質問] 1 小矢部市の防災について

[要旨] ①水害時のハザードマップに記された避難箇所について

[答弁] 市長 桜井 森夫

現在、市内には線路や高速道路の高架下など洪水時に通行が危険な状態になると想定される箇所は93箇所ございます。また、土砂災害警戒区域として指定されている箇所は223箇所あり、県や市において重要度の高いところから順次、地滑り対策工事や土石流対策工事などを実施しているところであります。

また、避難場所の表示につきましては、全自治会に避難所の場所を記載した案内プレートを配布し、自治会内の公民館やごみステーションなどで掲示していただくことにより、住民のみなさんへの周知、注意喚起に努めているところであります。

なお、避難経路の確保や、二次災害がない安全なルートを特定することは、気象や地理的条件など複合的な要因が多く困難であると考えており、災害の危険度が高まる前の早めの避難行動を取っていただくことが重要と考えております。

日頃からハザードマップを確認し、自分の住んでいる場所がどのような状態の場所なのか、近くの避難所の場所はどこなのかなどを事前に把握し、いざという時の行動の備えに繋げていただきたいと思いますと考えております。また、最新の気象や避難情報をテレビやラジオ、携帯電話などを通じて入手し、災害が発生する前に早めに避難行動を取っていただくことが、安全な避難へつながるものと考えております。

[要旨] ②地域ぐるみの防災意識向上について

[答弁] 市長 桜井 森夫

災害は必ずしも家族みんなが家にいるときに発生するというものではありません。例えば日中に災害が発生した場合、高齢者の方は自宅、若い世代の方は仕事、子どもたちは学校、といったようにそれぞれがバラバラに行動をとっていることも想定されます。

その意味では、日頃から家庭の中で災害時の取るべき行動などについて話し合うことは、より具体的に日頃の備えや、我が家の避難先を考えるなどのよいきっかけになると考えられます。

また、ご提案がありました地域の避難所ごとの「3世代防災教室」につきましては、家庭内にとどまらず、地域における世代を越えた防災意識の醸成を図る上でも意義深い取り組みであると考えますことから、地区の防災会や防災士、自治会と連携を図りながら実施を

検討してまいりたいと考えております

[要旨] ③女性防災ボランティアコーディネーターの育成について

[答弁] 市長 桜井 森夫

近年の大規模災害を教訓に、これまで、どちらかと言えば、男性が主体となっていた防災分野において、女性の積極的な参加によって、高齢者や要配慮者の方など女性視点からのきめ細やかな心配りが期待されております。

とりわけ、避難所運営においては、就寝場所や女性専用スペース等の巡回警備などに加え、女性特有の悩み事などの相談受付などを通して、女性避難者の不安やストレスを大きく軽減できると考えております。

このことから本市では、市自主防災連絡協議会を通じて、女性視点の重要性を鑑み、女性の地区防災会役員への参画や防災士の資格取得への配慮を要請しているところであり、徐々にではありますが認識は深まっているものと考えております。

また、女性をはじめ避難者のニーズを的確に受け止めて、つないでいくという避難所運営を総合的にコーディネートできる人材の育成が重要であると考えます。今後も引き続き、防災士による出前講座や研修会などを開催するとともに、若い世代や女性の方に防災に関する知識、関心を深めていただく講習会の開催を検討してまいりたいと考えております。

[質問] 2 定住支援について

[要旨] ①定住支援への本市の取り組みについて

[答弁] 企画政策部長 澁谷 純一

ご承知のとおり、コロナ禍で都市部から地方への移住意識が高まる中、昨年6月、ビジネス情報サイトのキャリアコネニュースに、本市が「テレワークが中心になったら住むべき街4選」として紹介されるというチャンスがやってきました。

これをまさに「ピンチをチャンスに変える」絶好のチャンスと捉え、今月10日から4週間にわたり、最大の乗客数を誇る山手線の1編成11車両の全てのつり革をジャックして、「テレワークするなら小矢部市」の広告を掲載し、首都圏からの移住者並びに関係人口の増加を図るとともに、本市の知名度向上を目指しているところであります。

若い世代に向けてのPRにつきましては、ご提案にもありましたように、新しく整備した2つのこども園を含め、本市の充実した子育て環境をPRし、魅力を伝えていきたいと考えており、PR方法につきましては、チラシの作成やSNSの活用など、より効果的な方策について検討してまいりたいと考えております。

また、定住支援制度の広報につきましては、従業員の多い市内企業を中心にチラシやポスターを配布し、制度のPRに努めているところでありますが、市内企業に限らず近隣市町村の企業、住宅メーカー、産婦人科等まで範囲を広げることは、より多くの方へのPRに繋がる効果的な方法であると考えます。

議員のご提案を参考に、まずは市外にある市内企業の本店、支店へのPRチラシの設置の依頼を検討してまいりたいと考えております。

今後も引き続き、県の移住・定住ポータルサイトの活用や連携を図りながら、定住支援策の利用促進に努めてまいりたいと考えております。

議員提出議案第 1 号
令和 3 年 10 月 22 日

小矢部市女性議会議長 稲原 永子 様

提出者	南部	沙希
賛成者	開田	瞳
	中嶋	ちはる
	宮崎	千恵子
	大窪	慶子
	本田	喜美子

小矢部市政に対する要望についての決議

上記の議案を別紙のとおり会議規則第 14 条の規定により、提案理由をつけ提出します。

提案理由

私たちは、女性の意識向上のため、第13回女性議会を開催し、女性の立場から行政の仕組みを学び、議会運営等も勉強いたしました。

今、男女の人権が等しく尊重され、女性が社会のさまざまな分野に参画する「男女共同参画社会」の実現が求められております。

このような時代に女性の視点と感性を政治に反映していかなければ社会の発展は望めないと思います。

この度、私たちが女性議会において学習し、要望する機会を与えられたのは、非常に得がたい体験でした。

今後、私たちは更に研鑽を重ね、活力ある小矢部市を目指し、ここに決議しようとするものであります。

小矢部市政に対する要望についての決議

私たちは、女性議会議員として、女性の視点からの小矢部市民として様々な問題意識を持ち、生活の中から課題や問題を取り上げ、市政を学んできました。

今後の小矢部市のより一層の発展を願い、次の項目について要望いたします。

記

- 一、地域ネットワーク体制の構築
- 一、子育て支援の充実
- 一、高齢者の生活支援の充実
- 一、観光施設の推進及び誘客の促進
- 一、定住支援の充実
- 一、災害時の地域ネットワーク体制の構築
- 一、女性防災ボランティアの育成

以上決議する

賛 成 討 論

私は、議員提出議案第1号小矢部市に対する要望について、賛成の立場から討論致します。

要望しました事項は、女性の視点からの要望であります。

行政当局には、私たち女性の意見を積極的に取り入れていただき、市民の生活環境の向上に寄与していただきたい。更に女性の意識向上のためにも、市政に対し継続して要望していくことが、必要な事であると確信致しております。

以上、私の賛成討論と致します。

本会議の様子



小矢部市政に対する要望についての決議



第13回小矢部市女性議会

閉 会 式

日 時 令和3年10月22日（金）
本会議終了後
場 所 小矢部市役所 議場

1 開 会

2 会長あいさつ 小矢部市女性団体連絡協議会
会長 嶋 田 幸 恵

3 来賓あいさつ
市長あいさつ 小矢部市長 桜 井 森 夫
市議会議長あいさつ 小矢部市議会議長 吉 田 康 弘

4 閉 会

1 南部 沙希 民生文教常任委員会

女性議会議員として市政について勉強させていただけたことは大変貴重な経験でした。

大学では地域創造学を専攻していますが、地方自治や議会制度といった基礎的な事柄と、小矢部市の市政方針や財政・予算に基づく具体的な事業について、実際の現場で学ばせていただくことで、小矢部市のまちづくりについて関心を深めることができました。

また、委員会ごとの勉強会では、子育て世代や高齢者が安心して暮らせるために、経験豊富な女性議員の皆様と、実体験に基づく質問を懸命に練り上げ、充実した時間を過ごすことができました。今後も、小矢部市民として市政に対する関心を持ち続けていきたいです。

大学生の若輩者でありながらこのような機会をいただけたことを大変ありがたく思っております。桜井市長をはじめとして、市議会議長様、市職員の皆様、女性団体連絡協議会の皆様には心より感謝申し上げます。



2 開田 瞳 民生文教常任委員会

第13回女性議会のお話を頂き、市政を知る良い機会だと思い参加させていただきました。

勉強会では地方自治、議会制度、市の財政についてや予算の詳しい説明を聴きました。知らない事が多く、小矢部市のことをたくさん学ぶことが出来ました。

本会議に向けての会合では、社会福祉協議会より説明を受けたことを教えて頂く時間もありました。役員の方々のアドバイスや委員会の皆さんの議論に学び、小矢部市のこれまでの現状をより深く知る大変貴重な体験となりました。

今回、女性議会を通して、学び体験したことを活かし、小矢部市がより良い街になるよう、市政に関心を持ち続けたいと思います。そして、1人でも多くの女性が、女性の視点から声や意見を発信出来ればと思います。

在任期間中、各関係者の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



3 小林 恵美 総務産業建設常任委員会

「嶋田議員の素晴らしさを感じておいで」という家族の後押しがあり、今回応募させていただきました。嶋田様にはご多忙の中、様々な視点からのアドバイスや、温かいお言葉をかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、事務局の方々にも支えていただきながらの委員会活動は、とても良い思い出になりました。



埴生八幡宮の視察では、観光ボランティアガイドさんの楽しい案内と、境内の清らかな雰囲気を感じることができ、改めて素晴らしい観光スポットだということを見ました。委員同士の意見交換では、多くの知識を学べるとても良い機会でした。各分野でご活躍されている皆様とともに過ごした時間は大きな財産となりました。

小矢部市長はじめ、当局の方々が多忙な中で、私達の意見に対して真摯に向き合い、前向きなご答弁をいただいたことにも心から感謝いたします。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

4 中村 真子 民生文教常任委員会

知人に声をかけられ、女性議会についてよく分からないままお引受けしました。初顔合わせでは、多方面でご活躍されている方ばかりで自分には大役すぎるのではと困惑しましたが、市政について知り、提案できるせっかく頂いた機会でもあるので、精一杯務めようと思いました。



勉強会の中で皆さんと話し合いをしたり、知人から市政への要望を情報収集したりしていくうちに、子育てに対する市の取り組みの優れた点や改善点が次第にまとまっていきました。本会議では、子育て世代の生の声として一般質問にて発言させて頂き大変感謝しております。模擬議会にも関わらず市長さんから丁寧な答弁を頂きありがとうございます。今後の市政に反映されることを期待しております。

そして年齢も職業も立場も違う多方面から参加された女性議員の皆さんと本会議という1つの目標に向けて協力し合えたことは、大変貴重な体験となりました。本当にありがとうございました。

5 川田 由佳 民生文教常任委員会

小矢部市男女共同参画推進委員より、推薦を受けて女性議会議員を引き受ける事になりました。

はじめは、とても不安な気持ちでした。今回は、新型コロナウイルス感染予防の対策として、前回より集まることが出来ない中、決められた時間で同じ委員会のメンバーで工夫し全員学習会や各委員会の会合で話し

合い、事務局の方々からのアドバイスをしていただき、質問文をまとめていると、小矢部市に関する事なのに知らない事が多い事に気づかされました。

今回の経験させてもらった事にとっても感謝しています。今後の活動にも役立てていきたいと思えます。嶋田会長はじめ関係者の方々、ありがとうございました。



6 中嶋 ちはる 総務産業建設常任委員会

私は、小矢部市商工会女性部より推薦を受け第13回女性議会議員を務めさせて頂きました。

7月28日、女性議員として当選証書を身の引き締まる思いで受け取り、本会議まであっという間の87日間。私にとって、大変意義のある貴重な経験をさせて頂いたと思っています。

初めての全員学習会や常任委員会では、たくさんの事を学びました。また、委員会の皆さんと色々な意見を出し合い、今まで知らなかった小矢部の魅力も再発見する事が出来ました。本会議に向けての質問に関しても、何度も話し合い、事務局の方からのアドバイスにも助けられ、無事、本会議の日を迎える事が出来ました。

本会議では、議員がそれぞれの役目を見事にこなし、また、市長はじめ当局の方より、私たちの質問に対し、丁寧な答弁を頂き、大変感動いたしました。本当にありがとうございました。

最後に、今回お世話頂いた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



7 多賀 比呂美 民生文教常任委員会

小矢部市に戻り、10年余りが経ちました。生まれ育った所でも、地域の現状や慣習をなかなか理解できないでいました。今回、「小矢部市のことを理解するよい機会になるのでは」というアドバイスをいただき、知らない私だからこそ参加することに意義があると思い、議員となることを決心しました。



コロナ禍という特殊な状況の中、ミーティングでは様々な制限がありましたが、だからこそ効率的な論議を集中して行えたように思います。

様々な年代や環境の違う方々と交流ができたこと、小矢部市の活動内容を知ったこと、そして何より私自身、「今後小矢部市に住み続けていくために、地域と触れ合い、交流する機会を自ら積極的に得よう！」という熱い思いに変化したことが、自分にとっての最大の成果だと思いました。

終わりに、いつもエールをおくってくださった役員の皆様や事務局の方々に、心より感謝申し上げます。

8 野村 道代 総務産業建設常任委員会

女性議員のお話をいただき当初は、迷いながらの参加となりました。総務産業建設常任委員会において、各課からの説明を受けた時も、理解ができず戸惑いました。コロナ禍ということもあり、視察がなくなったことで皆さんが、いろいろな意見を出されて、自主的に活動されたことが功を奏し、楽しい経験をしました。



今まで自分は小矢部のことを何もわかっていなかったことに気づき、美味しい食べ物、風光明媚な場所または、再考の余地がある場所についても触れることができ、貴重な体験ができました。皆さんと共に活動出来たことで、学びが楽しく感じられ、これからも多くのことにチャレンジしていこうという前向きな姿勢になれたことに感謝申し上げます。

今後は小矢部の課題である人口減少についても学び、あらゆる人が暮らしやすい小矢部を創造したいと思います。

9 番土 智枝子 総務産業建設常任委員会

源平歴史舞踊保存会、りんどうの会の推薦を受け、今回参加させていただきました。委員会にて予算概要の説明を受け、皆さんが活発に質問されているのに対し、私は何も言えず、これでやっていけるのだろうかと思われ、緊張と不安でいっぱいでした。



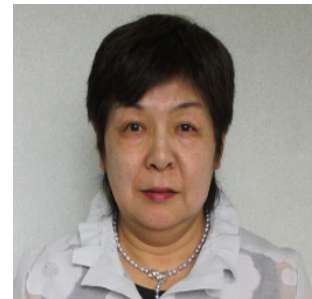
後日、委員会での話し合いの際、「2022年の大河ドラマに、義仲・巴が登場するので、是非その事を質問したらどうでしょうか」と、勇気を振り絞り初めて意見を言った事が思い出されます。

何度も皆さんと話し合いを重ね、質問書を作成する事が出来ました。また、本会議では、質問者として立たせていただき、桜井市長、河原部長から丁寧な答弁をいただきました。大変貴重な経験をさせていただき幸せを感じております。

委員会の皆様、ご指導いただいた役員の皆様、事務局の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

10 宮崎 千恵子 民生文教常任委員会

今回、小矢部市連合婦人会より推薦をいただき小矢部市女性議員を受けることになりました。私は民生文教常任委員会の委員長になり、大役が務まるか不安な気持ちになりました。



市政学習会、社会福祉協議会訪問、数回の委員会をして、本会議を迎えました。本会議に向けての質問作成には大変苦勞し、時間がかかりました。自分たちの伝えたいことがなかなか文章にまとまらず、日だけが過ぎていくこともありました。

事務局のアドバイザーの皆様からの助言をいただきながら、委員会で話し合いの場を重ねました。何回も検討を加えて、やっと質問内容をまとめることができました。委員の皆さんの知恵とチームワークのおかげで、最後まで乗り切ることができたと思っています。

本会議では、私たちの質問に対して、市長さんをはじめ、市当局から真摯な答弁をいただき、感謝すると共に、女性の視点からの意見が市政に反映されることを願う気持ちになりました。

本会議のすべてが終わって、市役所を出るとき、そこには、すがすがしい秋空が広がっていました。私の心は、達成感と充実感でいっぱいになりました。

私の財産となった今回の経験と出会いを大切にして、今後、小矢部市の発展に尽力したいと思います。お世話をしていただきました関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

11 大窪 慶子 総務産業建設常任委員会

私は、市外で生まれ育ち、市外に勤務先があったこともあり、現在住んでいる小矢部市については、あまり知識がありませんでした。女性議会は、小矢部を学ぶよい機会だと思い参加させていただきました。組織委員会において、委員長を引き受けることになり不安でしたが、年齢の異なる個性豊かな仲間との学習会や視察は、女性ならではの発見など貴重な経験となりました。

委員長としては未熟な私でしたが、当委員会のメンバーや女性議会事務局の皆様を支えていただき、質問文を提出することができました。

本会議では、幾度も修正した質問に、市長様や担当部長様から、真摯で前向きな答弁もいただき感激しました。また、仲間と無事に本会議を終えることができ、久々の達成感を味わうことができました。今回の女性議会は、有意義で密度の濃い時間を過ごすことができました。お世話いただいた皆様へ心よりお礼申し上げます。



12 吉田 敏美 総務産業建設常任委員会

小矢部市連合婦人会より推薦を受け、第13回小矢部市女性議員をさせていただくことになりました。

7月28日初日、自己紹介や当選証書付与式があり緊張と不安な1日でした。

総務産業建設委員として、おやべの予算や建設観光等の説明を聞き、たいへん勉強になりました。今回、

新型コロナウイルスの関係で市内施設の視察が中止になり残念でしたが、事務局の方々と埴生八幡宮で説明を聞く事が出来うれしく思いました。

後日委員会メンバーと宮島・稲葉山・北蟹谷と回って観光・防災を勉強しました。そして質問に関する勉強会を重ね、無事質問書をまとめることが出来、貴重な思い出となりました。

最後にこのような機会をいただけて感謝とお世話くださいました皆様へ心よりお礼申し上げます。



13 稲原 永子 民生文教常任委員会

小矢部市更生保護女性会の推薦により、女性議会の議員として活動ができましたことは、「どうしたら小矢部市がもっと住みやすくなるか」という視点で行政を考える契機となりました。当選証書付与式に始まり開会式・常任委員会・質問書提出に至る何回もの話し合い・本会議と、一連の活動は市の活性化のため何を発信すれば良いか、真摯に課題に向き合った緊張感溢れる日々でした。「苛政は虎より猛なり」の故事の如く、立地条件のよくない市であっても、住みたいと思う魅力ある制度や仕組みのある市であったなら、人は住むと思います。自治体は生き残りをかけた戦国時代のようなと言われて久しく、この時代を勝ち抜くためには、市民一人ひとりが知恵を出し合う機会が必要だと強く感じました。コロナ禍にあって、関係諸団体や諸機関のご高配により、87日間の会期を全うすることができましたこと、心中よりお礼申し上げます。



14 本田 喜美子 民生文教常任委員会

女性議会のお話をいただき、よく分からないままお受けしたのですが、初顔合わせで皆さん素晴らしい方々なので、自分だけが場違いな場所にいる様で大変不安でした。

全員学習会や委員会を経て、地方自治・議会制度市の財政制度等、いろいろな事を学びました。小矢部に住みながら、小矢部市の知らない事が多くあることに気づかされました。コロナ禍で市内視察も中止となり、委員会メンバーでの学習会の場所も制限される中での活動でしたが、女性団体のアドバイザーの方の意見を受け、議論を積み重ね、無事、本会議に望む事が出来ました。

女性議員にならなければ、経験する事のなかった議会や議場での立ち居振る舞い等貴重な経験と出会いを大切に、今後も市政に関心を持ち、地域活動に携わって行きたいと思います。

お世話いただいた女性団体連絡協議会の皆様、市職員の皆様ありがとうございました。



15 福江 悦子 民生文教常任委員会

10月22日日本会議、女性議員としての任務を終えほっとしました。

以前は市に対して様々な疑問と不満がありましたので委員会では、様々な質問事項を協議しました。しかし、市当局より資料と説明を頂き、また全戸配布の資料にも行政の試行錯誤の苦勞も見えてきました。ひとつの政策を実行すれば、必ず反対意見が出る。私たちが協議し一般質問とした問題の中には、今まで幾度となく試行錯誤を繰り返されたものもありました。コロナ禍で視察は中止となりましたが、嶋田会長のお力添えにより、資料集めや社会福祉協議会で、生の話が聞けた事は大きな収穫であり、また、何度も集まった委員会の皆さんとは最高のチームワークでした。

本会議では委員長さんをはじめ質問者の皆さんが、堂々たる発言で感動しました。私とえばわずかな時間でありましたが、議長席に座らせて頂いたことは、忘れられない光栄な出来事になりました。貴重な経験ありがとうございました。



16 忠田 啓子 総務産業建設常任委員会

私は、小矢部市で生まれ、いわゆる団塊の世代で、教室に55人のすし詰め温かさが懐かしい思い出です。そしてこの年齢になり、この長寿社会でいかに充実した暮らしができるかは、大きな課題でした。

今回、更生保護女性会から女性議会の一議員を引き受けることになり、また、仮議長として議長席に座らせてもらい緊張の初日でした。総務産業建設常任委員会では、市の財政、地方自治議会制度のこと、改めて勉強させてもらいました。

防災意識の啓発や観光資源の活用、日頃何気なく見過ごしてきた事も議論を重ねると課題が見えて、またそれを質問にする難しさを感じ、今まで問題意識を持っていなかった自分を反省しました。

委員会の視察では、八幡宮の宝物殿や、宮島の観光地、五郎丸の彼岸花をみて楽しい体験をさせてもらいました。

本会議では市長はじめ当局の方から丁寧な答弁をいただきありがとうございました。87日間の短い期間でしたが委員会の皆様、事務局の方々に支えられ有意義な日々を送らせてもらいとても感謝しております。これからも市政に関心をも持ち続けたいと思います。



桜井市長、吉田市議会議長、女性団体連絡協議会事務局と女性議員



総務産業建設常任委員会及び事務局



民生文教常任委員会及び事務局



小矢部市女性団体連絡協議会令和3年度役員名簿

(第13回女性議会事務局)

役職	氏名	担当委員会
会長	嶋田 幸恵	総括
副会長	高城満里子	民生文教
〃	林 智子	総務産建
〃	舟本 淳子	総務産建
書記	山本 柳子	民生文教
〃	和田由美子	総務産建
会計	飛田 久子	民生文教
〃	西野 宏実	総務産建
監事	水牧美耶子	民生文教
〃	沼田 純子	総務産建

令和4年3月発行

お問合せ先

932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

小矢部市定住支援課

(小矢部市女性団体連絡協議会事務局)

電話 0766-67-1760 FAX 0766-50-9177